

平成 22 年度（第 132 期）

事 業 報 告 書

社団法人 東京地学協会

平成 23 年 5 月 28 日

平成 23 年度（第 132 回）通常総会承認済

# 平成 22 年度（第 132 期） 事業報告書

社団法人 東京地学協会

## I. 事業の概要

### 1. 事業方針

地学を奨励し、地学における専門分野の連携を図り、もって総合的な地学の進歩普及を推進することを目的とする。

### 2. 事業内容

#### (1) 公益事業

##### A. 普及・啓発事業

##### ① 講演会の開催（定款第 4 条の一）

以下の通り、春季講演会、秋季公開講演会及び地学クラブ講演会（計 7 回）を実施した。

##### i) 春季講演会（於 協会講堂） 平成 22 年 5 月 29 日

講演 「日本におけるジオパーク活動の現状」

講師 （独）産業技術総合研究所 渡辺真人

##### ii) 秋季公開講演会（於 弘済会館） 平成 22 年 10 月 30 日

総合テーマ「南極の過去から地球システムのメカニズムに迫る」

講演 1 「南極氷床コアの気体分析から探る氷期-間氷期サイクル」

講師 国立極地研究所 川村賢二

講演 2 「地形が語る第四紀の東南極氷床変動と環境変動の歴史」

講師 国立極地研究所 三浦英樹

##### iii) 地学クラブ講演会（於 協会講堂）

・第 258 回 平成 22 年 4 月 20 日 「最近の地震津波による被害と影響の実態」 東北大学大学院工学研究科教授 今村文彦

・第 259 回 平成 22 年 6 月 18 日 「伊豆衝突帯における地殻の再生」 海洋研究開発機構地球内部ダイナミクス領域 田村芳彦

・第 260 回 平成 22 年 9 月 17 日 「沈み込み帯での地震サイクルに伴う地殻変動と地形形成」 千葉大学大学院教授 佐藤利典

・第 261 回 平成 22 年 11 月 19 日 「中部日本の地殻構造とアクティブ・テクトニクス」 千葉大学大学院教授 伊藤谷生

・第 262 回 平成 22 年 12 月 17 日 「日本の地震予知研究の歴史」 東京大学地震研究所研究生 泊 次郎

・第 263 回 平成 23 年 1 月 20 日 「自立型海中ロボットが深海底を見る」 東京大学生産技術研究所教授 浦 環

- ・第264回 平成23年2月22日 「地下水位変化から地震前後の地殻変動を推定する試み—現状と展望—」 産業技術総合研究所 活断層・地震研究センター 小泉尚嗣

②見学会の開催（定款第4条の一）

以下の見学会を実施した。

i) 海外見学旅行

「アイスランド・裂けて広がる北極圏の島の自然—火山と氷河と寒冷砂漠の自然地理」 案内者 北海道大学大学院教授 平川一臣  
平成22年8月16日から8月27日までの12日間（参加者13名）

ii) 国内見学旅行

「国分寺崖線（ハケ）の湧水と地層」  
案内者 立正大学前学長 高村弘樹、立正大学 河野 忠、小玉 浩  
平成22年10月9日（参加者15名）

③広報活動（定款第4条の四）

日本地球惑星科学連合大会（平成22年5月23日～28日）において、展示ブースを設け、協会の概要や最近の講演会及び見学旅行を紹介するパネルを展示するとともに、地学雑誌の特集号を中心とする頒布を行った。

また、協会パンフレットの改定版を作成した。さらに、協会ホームページの一新を図り、更新に必要な作業をほぼ終了した。

④日本地学史の編纂（定款第4条の三）

戦後の地学史のうち、「研究の成果（個別分野の調査研究）」を地球物理学、海洋学、気象学、火山学の分野に分けて、地学雑誌掲載用原稿の執筆を始めた。また、これまで地学雑誌に掲載してきた研究成果をまとめ、単行本と出版する方向性を固めた。

⑤図書室の整備（定款第4条の五）

内外の諸学会・機関から95種類の雑誌・ニュース等を受入れた。また、図書の整理を継続的に行った。所蔵の貴重本／協会出版物をCD化するべきかどうか検討した。

⑥専門家派遣（ジオエキスパート制度）（定款第4条の八）

2件の講演依頼があり、うち1件について会員を紹介したが、結果的には本事業の適用とはならなかった。これまで、ジオエキスパートの名称がよく理解されていなかったことに鑑み、「地学専門家派遣事業（ジオエキスパート）」と改称し、ホームページを更新することとした。

⑦関連団体との協力の推進（定款第4条の四）

i) 2013年に京都で開催される「IGU 地域会議」組織委員会へ委員を派遣するとともに、組織委員会構成団体として財政的協力を行った。

ii) 日本地球惑星科学連合、日本自然史学会連合などの関連団体との連携を進め、日本地球惑星連合大会における特別セッションの一つに対する財政

的援助を行ったほか、国際地理オリオンピック、国際地学オリンピック等への協賛あるいは後援を行った。

## B. 出版・頒布事業

### ①地学雑誌の発行・頒布（定款第4条の二）

会員の研究成果の発表を主目的とした通常号2冊と最新の話題や成果を集めた特集号を4冊（119巻2号から120巻1号まで）を発行した（総ページ数：1298頁）。また、本誌発行2ヶ月後を目途にオンラインジャーナル（J-STAGE）として公開し、地学協会ホームページからもアクセスできるようにしている。

これらの企画・編集のための委員会を、特集号に関するものを含め15回開催した。

### ②地質図幅等の頒布（定款第4条の二）

独立行政法人産業技術総合研究所との間で平成22年3月1日に結ばれた「地球科学図及び地球科学データ集の有料頒布業務」についての委託契約に基づき、同研究所地質調査総合センター発行の地球科学図及び地球科学データ集等出版物を委託販売により頒布した。頒布実績は、延2014部、払出総額にして約330万円であった。

## C. 研究等助成・表彰事業：

### ①研究等助成（定款第4条の三）

今年度の申請件数は、調査・研究助成14件及び国際研究集会援助金1件であった。審査の結果、前者について9件及び後者について1件が採択された。前者のうちの1件については、年度途中で申請者の健康上の理由により辞退となった。

### ②表彰（定款第4条の六）

地学分野において国内で顕著な業績を上げた者若しくは来日する著名な研究者等を対象とする「東京地学協会メダル」及び地学の普及に格段の尽力をした者を対象とする「地学普及功労賞」を設けることを定めた。来年度より選考委員会を組織して実施することとなった。

### (2) 収益事業（定款第4条の七）

地学会館ビルの一部賃貸・会館の保全管理事業：引続き地学会館ビルの一部を賃貸するとともに必要に応じた改修を行った。今年度の主要な改修としては、外部非常階段の塗装補修と、屋上防水塗装（トップコート）補修を実施した。

以 上